



2018.10.02 News 韓国「租税財政研究院」を訪問

ウォン・ジョンハク（元鍾鶴）財政事業評価センター（KIPF）所長を訪問。
KIPFは大統領直属の研究機関で、政府予算の一定部分を第三者機関として査定する。



韓国の政府機関は昨年、ソウルから田んぼの真ん中のようなオソン（Osong,五松）駅近郊の地域へ原則として移転した。ソウルから韓国新幹線 ktx で 50 分かかる。

元鍾鶴氏は、未来を創る財団の設立以来の評議員。延世大学経済学科同修士課程卒業後、一橋大学大学院経済研究科博士課程を卒業、在日中に経済学博士を取得。韓国帰国後、延世大学東西問題研究所研究教授を経て、韓国租税財政研究院に奉職された日本通の経済学者である。

KIPF の査定を受けて、財務省企画財政部が事業予算の見直しを行う。韓国でも、国会を中心に歳出拡大の要請は強いものの、政策評価による成果管理を厳しく行ってきたことで、無理な予算拡大に歯止め



がかかったとされる。査定結果も予算修正もすべて情報は公開されるので、政治圧力の影響は限定的。韓国では次世代に過大な負担を強いることには、世論がことに厳しい。



財務省に経済学者の金教授を表敬訪問した。同教授は 5 年の任期で大学教授から財務省に出向中。任期が終了すれば研究活動に復職する。昨年、公会計の日韓比較研究で訪日され、日本公認会計士協会の幹部と意見交換した。韓国では財政内容は基本的に公開されており、公会計の重要な役割とされている。数年前、軍事に関する人件費の増大が将来の財政を圧迫するとして国論を揺るがした。